

氏名	宮 地 克 維
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 号
学位授与の日付	平成16年9月30日
学位授与の要件	医学研究科内科系循環器内科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Equivalence of Flow Velocities Through Bilateral Pulmonary Vein Anastomoses in Bilateral Living-donor Lobar Lung Transplantation (両側生体肺部分移植における両側肺静脈吻合部血流の 同等性)
論文審査委員	教授 佐野 俊二 教授 梶谷 文彦 助教授 猶本 良夫

#### 学位論文内容の要旨

経食道心エコーは肺移植術中の心臓の状態や血栓形成や血管吻合部狭窄の有無などの評価に有用であるが、肺静脈吻合部血流を客観的に評価する簡便な指標はこれまで示されていない。今回我々は両側生体部分肺移植時に術中経食道心エコーで肺静脈吻合部径と血流の評価を行い、合併症の有無との関係について検討した。対象は当院において両側生体部分肺移植を行った患者17例。肺移植手技終了後、経食道心エコーにより両側肺静脈吻合部の径と血流速度の測定を行った。血管径は症例により左右で異なっていた。しかし、血流速度は17例中14例で比較的同等（流速の速い側/流速の遅い側=1.40以下）で、その値が1.4を越える3例では術中もしくは術後に肺血管吻合部、もしくは血管床に影響を及ぼす合併症を生じた。術中に合併症を生じた2例についてはその解除により血流速度の比は1.4以下となった。両側生体部分肺移植において両側肺静脈血管吻合部の血流速度は同等であった。その同等性生体部分肺移植成功のための一つの指標となりうるかもしれない。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は肺移植術中の肺静脈吻合部径と血流の評価を経食道心エコーにて行ったものである。

従来、経食道心エコーは肺移植術中の心臓の状態、血栓形成や血管吻合部狭窄の有無などに用いられてきたが、血流の評価を行ったのは初めてであり、これにより術中の異常が評価を可能にした価値ある知見を得た。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。